

南海地震に備える

香川県防災局 乃田 俊信

<6>

被災者及び救助活動の状況

【被災者の状況】

神戸市内の阪神・淡路大震災による犠牲者の年齢別分布を見てみると、別表の通りであり、一目して、高齢者に犠牲者が集中していることがお分かりになると思えます。その原因としては、高齢になるほどとっさの判断や対応行動が鈍くなることや、高齢者のほとんどが被害の大きかった一階部分に住んでいたことなどが考えられています。

次に、犠牲者が亡くなった場所は、地震発生が午前5時46分では

んどの方が就寝中だったため、90%近くが自宅でした。

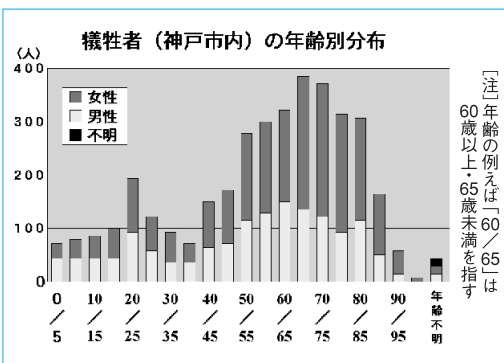
犠牲者の死亡原因をみると、80%以上の方が建物被害や家具の転倒を原因とする圧死・窒息死でした。住み慣れた家や使い慣れた家具が凶器になったのです。また、火災による犠牲者も15%程度いたのですが、そのほとんどが被災した建物の中に閉じ込められた状態で延焼に遭ったものでした。

【救助活動の状況】

阪神・淡路大震災では、建物などに閉じ込められて外からの救出

を必要とした人は約35000人いたと推定されていますが、実にその約90%に当たる約32000人を近所の人たちが救出しました。さらに救出された人の90%近くの命が救われたのです。

一方、消防・自衛隊などの防災機関による救出は、全体の約10%に過ぎず、その内、救助された人は4分の1にも満たないものでした。(ここで言う「救助」とは「命を救



うこと」であり、「救出」とは「救い出すこと」で、ご遺体も含まれます)

救助された人たちのほとんどは、地域住民の手によるものであり、「人命救助は時間との勝負！」という

エピソード ②

②

【被災者心理】さつきまで声が…

被災地に向かう途中、兵庫県芦屋市に入ったあたりから大渋滞になりました。止まると、道端にいた人が車のドアをたたき、「助けてください。さつきまでおじいちゃんの声が…」と泣きながら叫ぶのです。

私は、命令を受けて行動しており、目的地まで急がなければなりません。一瞬迷いましたが、「我々は何のために来たのか。困っている被災者のために少しでも…」と決心し、十数名に救助を命じ、先を急ぎました。

ことを如実に示すデータとなりました。

【次号のテーマ】

次号では、阪神・淡路大震災の教訓などについてお話しします。

しばらく進んで、また止まると、今度は若い母親から「さつきまで子供の泣き声が…」と。同じようなことを繰り返しながら、目的地に着いた時には部下の人数は相当減っていました。救出を終えて到着した部下に聞くと、「ほとんど即死状態でした」と疲れきった様子でした。

私がある場を通りかかったのは、地震が発生してから一日半近くたっていました。しかし、被災者の耳には、おじいちゃんや可愛い子供の声がかびり付いていたのでしょうか。あるいは、この一日半が空白だったのかも知れません。これが被災者の心理なのでしょうか。